



2021年11月1日

各 位

会 社 名 マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 原 一将
(コード番号 3132 東証第1部)
問合せ先 取締役 佐野 繁行
(TEL 045-470-8980)

業績予想、剰余金の配当（中間配当）および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2021年7月26日に公表いたしました2022年3月期通期連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）および2021年5月10日に公表いたしました期末配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、当社は2021年11月1日開催の取締役会において、2021年9月30日を基準日とする剰余金の配当（中間配当）を下記の通り決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正

(1) 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A） （2021年5月10日発表）	百万円 670,000	百万円 25,000	百万円 25,000	百万円 17,000	円 銭 273.75
今回修正予想（B）	720,000	30,000	29,000	20,000	321.80
増減額（B－A）	50,000	5,000	4,000	3,000	
増減額（％）	7.5%	20.0%	16.0%	17.6%	
（ご参考）前期実績 （2021年3月期）	553,962	18,769	16,399	10,875	175.39

(2) 業績予想修正の理由

2022年3月期通期連結業績予想につきましては、COVID-19の懸念はあるものの、ワクチン接種も進み、企業活動や経済活動の動きがみられるようになりました。そのような中、半導体及び電子デバイスその他事業におきましては、半導体不足や東南アジアにおけるCOVID-19による部品遅延、中国での電力不足などの懸念もありますが、半導体や生産ライン、5Gやデータセンター、自動車の電動化など様々な設備投資が見込まれ、産業機器、通信インフラ、車載市場など引き続き強い需要がある見通しです。ネットワーク事業におきましては、クラウド利活用の加速を背景に、クラウドサービス関連商品、クラウドゲートウェイセキュリティ関連商品等の導入が進むことから同商品を中心に成長する見通しです。これらの事業環境と当社の収益状況を踏まえ、2022年3月期通期連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

2. 剰余金の配当（中間配当）および期末配当予想の修正

（1）剰余金の配当（中間配当）

	決定額	直近の配当予想 (2021年5月10日公表)	前期実績 (2021年3月期中間)
基準日	2021年9月30日	同左	2020年9月30日
1株当たり配当金	40円00銭	30円00銭	25円00銭
配当金総額	2,488百万円	—	1,552百万円
効力発生日	2021年12月2日	—	2020年12月2日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

（2）期末配当予想の修正

	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想 (2021年5月10日公表)	30円00銭	30円00銭	60円00銭
今回修正予想		40円00銭	80円00銭
当期実績	40円00銭		
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	25円00銭	25円00銭	50円00銭

（3）剰余金の配当（中間配当）および期末配当予想修正の理由

当社は、将来の事業展開と経営体質の一層の充実・強化のために必要な内部留保を確保するとともに、株主の皆様に対し極力利益を還元すること、諸般の情勢を勘案しつつも安定した配当の継続に努めることを基本方針としております。

2022年3月期につきましては、業績見通しの達成状況や事業環境等を総合的に勘案し、第2四半期末の1株当たりの配当（中間配当）を前回予想から10円増配の40円と決定いたしました。期末の1株当たりの配当予想につきましては、前回予想から10円増配の40円に修正いたします。この結果、1株当たりの年間配当予想は、前回予想から20円増配の80円となる予定であります。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上